

6万人が感動した教育界の知られざる名作

『大きな学力』第2弾

生徒、父母、市民から寄せられた感想より

自分の悩みが小さく見えてきた！
(高校3年生)
私も不安や悩みなどが沢山あります。この本を読んで私が悩んでいる事が小さく思えました。世の中にはもっと大きな事で悩んでいる人がいる事、それと、挑戦する事を教えてもらいました。

理想の教師像が変わった！
(教師志望の学生)
自分の理想の教師像が変わった。子どもの心の闇を受け止めるには、よく聞き、受け入れ、共感できるか、まさに人間としての器が問われる。父母、社会、地域の人々と関わりながら、失敗を恐れず、波風体験を大切にしたい「何を言ったか」ではなく、「誰が言ったか」の“誰”になりたい。

壁にぶつかった時こそ、「内的勝利」を！
(父母)
子育てに悩むとき、人生の壁にぶつかる時、どのように考えたら一歩前に進めるか迷ったときこそ、手に取りたい一冊です。私はとりわけ「内的勝利」についての記述部分が心に響いてなりません。

単なる教育書ではなく、人生の指南書
(市民)
単なる教育書にとどまることなく人生の指南書のような感じです。こういう教育がされていることに対して一市民として深く感動しました。じっくりかみしめながらもう一度しっかり読みたいと思います。

生きる勇気が湧いてきました
(京都府・夫を亡くした市民より)
波風をいとわないでというメッセージ。生きる勇気が湧いてきました。

子どもたちや、親たちが苦闘し、もがき、輝ける時間をするまでの真実のドキュメントがここある。

『21世紀型学び』 の 人間群像

波風体験

自分の「大きな力」に気づくとき

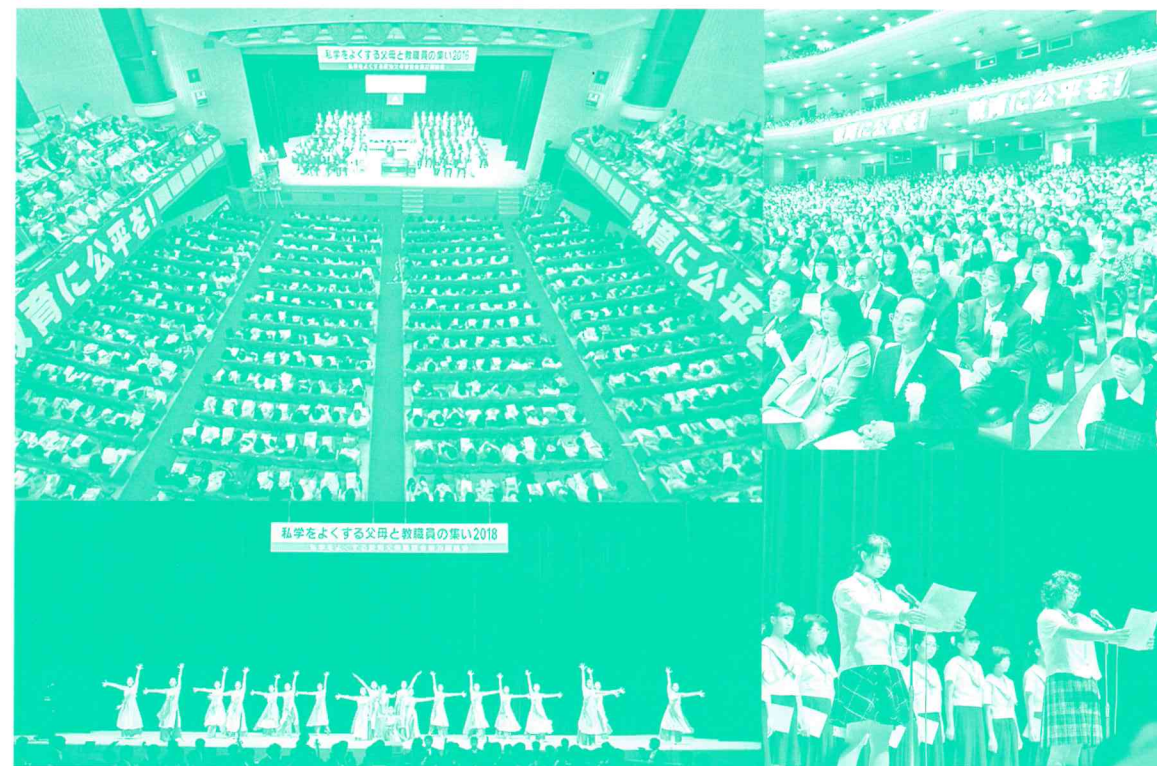
寺内義和



教育の「常識」には「ウン」がいっぱい！
6万人が感動した教育界の知られざる名作
待望の書き下ろし
『大きな学力』第2弾



私学をよくする愛知父母懇談会 第40回総会



2019年5月26日(日)
名古屋市公会堂

第40回総会プログラム

第1部

文化行事 父母懇群舞サークル

群舞「ダンシングヒーロー」「八木節」



希望プロジェクト2019

総会行事

開会の言葉	2019年度役員提案
会長挨拶	新役員あいさつ
来賓紹介	会則改訂(案)
来賓あいさつ	2019年度活動計画(案)
祝電・メッセージ披露	2019年度予算(案)
議長団・書記・議事録署名人 選出	総会決議(案)
2018年度活動報告	議長団・書記・議事録署名人 解任
2018年度会計報告・監査報告	閉会の言葉

第2部

記念講演 フォトジャーナリスト

やすだ なつき
安田 菜津紀氏

1987年神奈川県生まれ。Dialogue for People (ダイアログフォーピープル) 所属フォトジャーナリスト。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたち取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『写真で伝える仕事 - 世界の子もたちと向き合って -』(日本写真企画)、他。上智大学卒。現在、TBSテレビ『サンデーモーニング』にコメンテーターとして出演中。



・シンボルマーク
愛知(ローマ字の頭文字A)をバックに私学(スクールの頭文字Sが回転永久運動の型)
父母懇(人形を複数で会員表現)の趣旨を圖案化

(小林淳一氏の原画)

2018年度 活動報告

私たち「私学をよくする愛知父母懇談会」は、「誇りをもって選び、学び、語ることでできる私学を!」「ひとりぼっちの父母をつくらない!」を合言葉に、39年間にわたって活動を積み重ねてきました。生徒を真ん中に父母と先生、さらに市民が一緒になって、お互いに学び、助け合い、共に成長できる教育・文化活動と私学助成の拡充による「公私格差の解消」を目指して活動してきました。

2018年度の活動は、「教育に公平を」「21世紀型学び」を多彩に豊かに創り上げよう」を合言葉に、6月には「教育を考える初夏のつどい」を県下47会場で開催し、さまざまな講座企画を市民と共に繰り広げ、地域とのつながりをより一層深めました。

7月の第30回愛知サマーセミナーでは、名誉校長に日本将棋連盟会長佐藤康光氏を迎え、椋山女学園大学・椋山女学園高等学校・中学校・小学校・近隣の公立小・中学校等を会場に、2,100講座に6万人が参加して、父母、生徒、先生、市民が一体となり、豊かな学びと感動を共有し、学ぶことの楽しさと新しいつながりを広げ、「21世紀型学び」を体現することができました。

8月4日、5日に開催された夏季一泊研修会は、情勢と活動の成果を確認し、秋の大きな運動に向かって意気を高めるとともに、会員相互の親睦を図り、「学びと宴」で有意義な時間を過ごしました。

9月末から開催された「地域別県民文化大祭典2018オータムフェス&夢の学校」は、県下37会場に、約45,000人の参加を得て、大成功をおさめました。「希望プロジェクト2018」や「講座企画」「平和企画」では、参加者一人ひとりが主体者となり、多くの市民とつながる、貴重な学びの場になりました。そして、たくさんの県会議員の先生方にご登壇いただき、「私学選択の自由」「私学無償化」への思いを、幅広い世代の市民の皆さんと共有することができました。

学びの中で成長した子どもたちは、11月3日のBIGフェスティバルに、宮本副知事をお迎えして、「私学を無償に!」の切実な思いを、自分たちの言葉と、800人の群舞、たくさんの父母も加わった大合唱で発信し、参加者に大きな共感と感動を与えました。

生徒たちは「まだ見ぬ仲間を救いたい」と、「私学奨学資金財団1億円募金」の取り組みも続け、私たちはその活動に寄り添い、見守ってきました。

「丁寧な署名」を心掛け取り組んだ「私学助成拡充を求める請願署名」は、311万1582筆を集め、ブロック・学園の多くの父母や先生たちと一緒に見守る中、県議会に提出することができました。この請願署名は、12月の県議会において、全党一致で採択されました。

私たちの切なる願いを受け止めていただき、愛知県の2019年度予算では、高校は経常費助成の国基準が維持され、専任教員比率の向上につながる成果も得ることができました。入学金補助は、3年ぶりに県独自予算で増額され、新入生父母の負担を軽減し、「私学選択の自由」につながる私たちの要望に添った、未来につながる成果になりました。しかし、東京や大阪・神奈川など、大都市圏で私立高校の無償化が大きく進む中、愛知県においては、無償化の対象を新1年生から乙Iまで広げることと、制度にもとづく授業料助成の増額は見送られました。小中学校の経常費助成も増額されましたが、国基準は回復していません。また、名古屋市では、教育子ども委員会で「請願」が採択されたにもかかわらず、名古屋市独自の授業料助成制度の助成額は、従来の算定方式に沿って増額されず、一層の取り組みが必要となっています。

一年の締めくくりである今年2月の春季一日研修会では、660人の参加者に秋の運動の成果が報告され、分科会では各ブロック・学園がこの一年を通して取り組んできたこと、頑張ったこと、そして感動の数々を、父母、生徒、先生と共有することができました。

愛知私学の教育実践と人間ドラマが詰まった『されど波風体験』と『大きな学力』の2冊は、「21世紀型学び」の方向を示していて、より多くの父母や市民に読んでいただきたいという思いで、各種行事や全国で普及することができました。ぜひご一読ください。

『21世紀型学び』で、戦後第3の教育改革の波を愛知私学から！

子どもと大人が共に育ちあう、私学らしい「21世紀型学び」の創造へ

今、愛知の私学では、生徒、父母、教師、市民が一体になって、「21世紀型の学び」をめざして、様々な取り組みが行われています。中でも「愛知サマーセミナー」は「教育改革の壮大な挑戦」として全国の教育関係者をはじめ多くの人々から大きな注目を集めています。

第31回を迎える今年の「愛知サマーセミナー」（7月13日～15日）は、南山学園（大学・中学高校男子部・中学高校女子部・付属小学校）をメイン会場に開催されます。著名な特別講師陣はもとより、心熱い生徒、父母、教師、市民による約2000講座のラインナップも決まりました。“参加し、共同して、社会とつながる”「21世紀型学び」の祭典として、今年もたくさんの学びと感動を与えることでしょう。

愛知父母懇は、このサマーセミナーを運営する「主力部隊」です。行政や地域の諸団体から協力を取り付け、講座の募集や宣伝、当日の受付やスタッフまで、1000人以上の父母の力によってサマーセミナーは支えられています。活躍する父母の“笑顔”で、サマーセミナーには「“ありがとう”の連鎖」が生まれ、誰もが「やってよかった」「参加してよかった」と感じる“夢の学校”になっています。

社会に「感動」と「共感」の渦を巻き起こす高校生の姿！

愛知私学に、年々新たな輝きを加えているのが高校生フェスを中心とする、生徒たちの躍動です。高校生フェスは1986年に始まり、既に30余年。生き生きと活動する姿で、次世代を担う高校生の真価を発揮してきました。その思いは「高校生は無力じゃない」「私たちは希望になりたい」など

の言葉に凝縮されています。

4月28日に南山大学で行われた「新歓フェス」には、1万人以上の中高生が集まり、「全国高校生サミット」には全国15都府県から400名が参加して、時代と社会の生の現実から学び、行動する高校生の姿が次々に報告されました。

「まだ見ぬ仲間を救おう！」1億円募金運動と「希望プロジェクト」——利他を生きる

生徒たちは1999年から毎月欠かさず、“ゼロの日（10日・20日・30日）”に名古屋市・栄の街頭で「1億円募金」を行ってきました。「経済的理由で苦しむ仲間を救おう！」と呼びかけ、現在、累計で約1億7290万円に達しています。これは、1976年、学費の高騰の中で、経済的な理由で退学せざるを得ない生徒たちを前に、先生たちがポケットマネーを出し合って設立した「私学奨学金財団」の原資となります。年間12万円を無利子で貸し出し、これまでに3007人が奨学金を受けて卒業してきました。そして、震災復興支援や社会とつながる“学び”、学費の公私格差解消など、自らの足元の問題を結合した『希望プロジェクト』は、新歓フェスやBIGフェス、オータムフェスなどで大きな感動を広げ、「社会と向き合い学び行動する」生徒たちを次々に生み出しています。

「一人ぼっこの父母をなくそう！」愛知父母懇は「21世紀型学び」の大黒柱です

「私たちが学校の枠を越えてつながることができるのは、大人がつながっているからです。愛知には、父母さんたちのつながりが30年以上あるのです」

（全国高校生サミットで生徒の発言より）
生徒たちがこうして躍動できるのは、学校の枠をこえ、地域と深くつながった愛知父母懇の活動があるからです。

豊かな私学教育の創造と「教育に公平」「私学選択の自由」をめざして

「学費と教育条件の公私格差の解消」は、父母懇の原点！

「私学をよくする愛知父母懇談会」（略称：父母懇）は1980年に結成されました。当時、公立と私学の学費の格差は30倍以上に広がり、同じ高校生でありながら、高い学費負担を強いられる父母の願いは切実でした。学費と教育条件の「公私格差」の解消は、「一人ぼっこの父母をなくそう！」と共に、父母懇の「原点」です。私たちの先輩は、長年にわたる運動で私学助成を拡充し、学費と教

育条件の「公私格差」を縮小してきました。毎年秋には、私学助成拡充を求める請願署名を集めると共に、父母、教職員、生徒、そして多くの市民の参加を得て、これまでに、「地域別県民文化祭典（オータムフェス）」「ドーム祭典」「レインボー祭典」などの教育集会に取り組んできました。

県下36会場オータムフェスの成功で、311万余筆の請願署名は、県議会全党一致採択

昨年は311万筆余の請願署名を集め、県下36会

場に4万5千人が参加したオータムフェスには、過去最高の89名の県会議員にご登壇いただき、12月県議会において、全党一致で採択していただきました。

高校の経常費助成は国基準を維持、新入生の負担を軽減する入学助成増額が実現！

今年度の愛知県私学助成予算では、高校の経常費助成は国基準が維持され（生徒一人33万6311円）、特別助成の専任教員改善分についても95%を目標に予算化がなされました。懸案だった乙Ⅰランクの入学助成も、乙Ⅰランク（年収610万円未満）は10万円から13万円に、乙Ⅱランク（年収840万円未満）は6.5万円から10万円に増額され、授業料助成と同じ算定方式で、「甲ランクは全額、乙Ⅰランクは2/3、乙Ⅱランクは1/2」が助成されることになりました。県議会並びに県当局のご尽力に、心から感謝申し上げます。

授業料助成については、2015年度以降、「甲ランクは全額、乙Ⅰランクは2/3、乙Ⅱランクは1/2」を助成する算定方式によって、甲ランク39万8400円、乙Ⅰランク26万5200円、乙Ⅱランク19万9200円が助成されています。しかし、各学園で、施設設備費等を授業料に組み入れる「授業料一本化」が進んだことにより、授業料平均が三年前と比べて約8000円上がっていますが、制度に基づく授業料助成の増額は、来年度に持ち越されました。最重点の要望であった、国の無償化政策の“前倒し”によって無償化の対象を広げていただくことも、来年度へ先送りとなっています。また、小中学校の経常費助成は、国基準の伸び率を当てはめて増額されましたが、年々増額されている国基準絶対額との差は拡大しています。

大都府県を中心に「私学の無償化」すすむ。今こそ「私学選択の自由」「私学も無償に」

愛知県では、2017年度から「公立高校の選択の自由を広げる」ことを理由に、「三河学校群の廃止」「尾張学区の共通校の拡大」など、公立高校の入試制度の見直しをなされ、私学も大きな影響を受けて、「公私両輪体制」が大きく傾いています。「高校選択の自由」を言うならば、学費の公

私格差を解消して、学費の心配をせずに「私学を選択する自由」が保障されなければなりません。

今、大都府県を中心に「私学も無償に」は、一つの潮流となっています。大阪府は「年収590万円未満世帯の学納金無償化」に加え、「年収800万円未満世帯の学納金負担を“子ども3人以上”は無償に、“子ども2人”は10万円、“子ども1人”は20万円」へと制度を拡充しました。「年収760万円未満」世帯の授業料無償化を実施している東京都は、「授業料一本化」に伴って助成額を44万9000円に増額しました。昨年度から「年収590万円未満」の授業料無償化を実施している神奈川県は、「来年度、国の無償化が実施されれば無償化の対象を年収720万円未満まで拡充する」としています。

愛知県では、年収350万円以下の「授業料無償化」が実現していますが、所得の中間層において大きな学費負担が残っています。その結果、私学入学者の多くが“不本意入学”となり、愛知の公私両輪体制は、極めて“いびつ”な状態が解消されていません。「本当は私学に行きたかったけれど学費のことで公立に行かざるを得なかった」という例も枚挙に暇がありません。「教育に公平を」「私学も無償に」は、愛知県の高校教育、そして県民全体にとって切実な課題になっています。

「教育の機会均等」の理念に根差した名古屋市の授業料助成を守るために

私たちは、名古屋市に対して、制度に基づく授業料助成の増額を求める請願を提出し、減税党を除く全党の市会議員が紹介議員となって、教育子ども委員会が採択していただきました。しかし河村市長は、市の制度（従来の算定方式）に基づいた授業料助成の増額を6年連続で実施しませんでした。市の条例に示された「教育の機会均等」の理念、2014年に提出した169万筆の請願署名と市会の請願採択に背く、市長の独断による暴挙と言わざるを得ません。私たちは、国や県に対して運動をすすめるとともに、名古屋市の授業料助成制度を守り、県下各市町独自の授業料助成の拡充についても引き続き運動を強めていく決意です。

地域別県民文化大祭典

高校生BIGフェス	11/3	愛・地球博記念公園（モリコロパーク）	犬山集会	犬山市南部公民館	小牧集会	小牧市東部市民センター
			安城集会	安城学園高等学校	尾張旭集会	11/11 尾張旭中央公民館
海部集会	9/29	愛知黎明高校	名古屋南集会	10/28 大同大学大同高校	名古屋港集会	南陽交流プラザ
奥三河集会		黄柳野高校	名古屋守山集会	金城学院大学(体育館)	江南集会	江南市民文化会館
豊橋集会	9/30	桜丘中学高校	瀬戸集会	聖霊中学・高等学校	岡崎集会	岡崎城西高校
豊川新城集会		豊川高校	知多半島南部集会	日本福祉大学付属高校	名古屋千種集会	植山女子園中学高等学校
名古屋熱田集会	10/20	名古屋市立南養護学校	名古屋緑集会	11/4 地区会館徳重(ユメリア徳重)	名古屋西集会	11/17 西区役所講堂・花の木公園
名古屋中集会	10/27	長円寺会館	名古屋中川集会	中川区役所講堂	長久手集会	イオンモール長久手ホール

豊明集会 名古屋天白集会 名古屋瑞穂集会 名古屋中村集会 名古屋東集会 名古屋名東集会	11/18	豊明市大鷲コミュニティセンター 東海学園大学名古屋キャンパス 名古屋大谷高等学校 同朋高等学校 東海中学高校 東邦高校	知多半島北部集会 岩倉集会 稲沢集会 豊田集会 名古屋北集会 一宮集会	11/23	愛知県スポーツ協会 一宮集会	日進東郷集会 春日井集会 名古屋昭和集会 清須北名古屋豊山集会	11/24	東郷町イーストプラザいこまい館 春日井市総合福祉センター 南山大学 清須市春日公民館・体育館
--	-------	--	--	-------	-------------------	--	-------	---

地域センター・ブロック

■地域センター

県内を10の地域：名古屋東部、名古屋北部、名古屋西部、名古屋中部、名古屋南部、尾張東部、尾張西部、知多、西三河、東三河のセンターに分けて、関わるブロック・学園の代表者をはじめ、父母、生徒、先生が積極的に活動に参加しています。

ブロック・学園の情報を交換しつながりを強めて支援しあうことで、お互いに意識を高め合いながら地域センターを司令塔とした活動を行ってきました。

今後も、ブロック・学園の更なる連携を図るとともに「公私格差の是正」「教育の公平」をめざして、各地域センター相互の交流を深め実りあるセンター活動を推進していきます。

■ブロック活動

「ひとりぼっちの父母をつくらない」をスローガンとし、地域に在住する父母、生徒、先生が学園の枠を越えて、担当学園父母懇と協力しながら地域とつながり、よりよい教育を目指して、県下54の地域ブロックに分けて活動をすすめてきました。

初夏のつどいは47会場、秋のオートムフェスティバルは、BIGフェスティバルを含め37会場で開催されました。オートムフェスティバルでは、「21世紀型学び」の創造、「私学も無償に」を掲げ、生き生きと躍動する高校生を中心に、地域の文化を集め各会場を「希望プロジェクト2018」でつなげました。講座企画には多くの市民の方々にもご参加いただき、楽しい時間を共有することができました。

網の目教育懇談会は、のべ89会場で開催され、

1,400名以上の参加がありました。学園だけにとどまらず愛知県高校生フェスティバルで活動する生徒の姿にみられる多彩な私学教育を、中学生や中学生父母に理解してもらうことができました。

これらブロックの継続的な運動により授業料助成が、昨年度の江南市の増額に続いて、小牧市でも2019年度4月から大幅に増額されることになりました。

各ブロックでは、レクリエーション企画、定例会などを通して「学びと宴」を合言葉に、すべては子どもと教育のために、ブロック活動をすすめています。

■学園活動

各学園父母懇では、新入生父母歓迎会に始まり、懇親会・地域懇・ニュースの発行など様々な取り組みが行われました。初夏のつどい・サマーセミナー・一泊研修会・全国父母懇交流集会などにも、学園父母懇として積極的に参加しました。また「学びと宴」を合言葉に、レクリエーション活動も併せて楽しんできました。

オートムフェスティバルでは、模擬店出店や希望プロジェクトの合唱参加などを通じ、これまで以上に多くの父母や地域とのつながりを広げていきました。このつながりは署名活動にも活かされ、皆で協力して集めることができました。さらに一日研修会では、一年間の学園父母懇活動の報告や、「主体者」として参加した体験談などが熱く語られ、感動を共有することもできました。

これからも、このような多彩な体験や交流を通じて父母、生徒、先生、市民のつながりを深め、各学園父母懇のさらなる発展を目指して活動していきます。

研修会等の開催と参加

■夏季一泊研修会

テーマ：新たな出会いが 希望の輪をひろげる！
愛知父母懇談会の一泊研修！
～ 子どもたちのために
そして、私たち自身のために ～

第39回夏季一泊研修会が、8月4日(土)～5日(日)ロワジールホテル豊橋を会場に723名の参加者で開催されました。西手会長代行の挨拶に続き、来賓の横田正行先生からは全私研、サマーセミナーなど2018年度前期の活動、また情勢と今後の運動についてお話いただきました。田中一夫先生

の基調報告では、愛知県高校生フェスティバルの活動、総会や初夏のつどい、サマーセミナーの成果などが多岐にわたって詳細に報告され、またオートムフェスティバルをはじめとした秋からの運動方針についても熱く語られました。

テーマ別分科会では、各レポートの発表と参加者の意見交換が活発に行われました。そして一泊研修会でも「学びと宴」。夕食懇親会は各地域センターの工夫を凝らしたアトラクションなどで盛り上がり、続く地域別懇親会では参加者同士がさらに交流を深めていきました。2日目には、合唱・ものづくりなどの講座に加え、新たに第八分科会「学びの講座」が開講され、父母、生徒、先生が一緒になって憲法と平和について学びました。

今回も2日間にわたって有意義な時間を共有することができ、オートムフェスティバルの成功に向けて、皆の思いが集結する研修会となりました。

■春季一日研修会

テーマ：学びあおう！ともに輝きつづけるために
～ 子どもたちのために

そして、私たち自身のために ～
第34回春季一日研修会が、2月24日(日)同朋高校を会場に開催されました。参加者は昨年度を上回る654名の方々にご参加いただきました。折出会長の挨拶に始まり、会場校からは同朋高校校長梅田功先生にご挨拶をいただきました。横田正行先生からは、来年度の私学助成予算が要望に近づき増額された喜ばしいお話と、オートムフェスティバルに関わった一人一人の奮闘に対してお礼をいただきました。基調報告では仲井真司先生から、父母懇活動の歴史と、各会場でのオートムフェスティバルで創りだされたたくさんのドラマと成果を、分かりやすく熱く語られました。田中一夫先生からは、「希望プロジェクト2019」のテーマと特徴点をお話いただき、新しい合唱曲「夢をあきらめないで」の発表があり、来年度も公立中学、愛知私学の吹奏楽部への声かけを提起されました。

昼食タイムでは、同朋父母懇のみなさんに大変お世話になりました。カレーライス、コーヒー、お菓子等心温まるおもてなしにとっても感謝しております。ありがとうございました。

午後からは、テーマ別分科会に分かれてレポー

ト発表をしていただき、活発な意見交流をしながら、有意義な時間を過ごしました。

今年度も、参加者のみなさんと多くの事が学べた研修会となりました。

■全国父母懇交流集会

第37回全国父母懇談会・私学助成をすすめる会交流集会「九州・福岡大会」が10月7日(日)～8日(月)に、福岡女学院で開催されました。愛知からは65名が参加しました。

1日目は、オープニングとして福岡女学院の生徒によるパイオルガン演奏があり、全国私教連の永島先生の基調報告のあと、臨床心理士神崎保孝氏による「特別支援教育に活用できる臨床心理学の視点～子どもたちの自己実現を支える選択肢～」の講演がありました。

タカクラホテルに場所を移動しての夕食交流会では、毎年恒例の各県による出し物が披露され、愛知からはこの日のために皆さんで練習した「ダンシングヒーロー」を踊りました。

2日目は分散会が行われ、愛知からは5つのレポートが発表されました。他県の発表も聞くことができ、父母懇への理解が広がり、とても充実した2日間でした。

■全国私学夏季研究集会(全私研)

第49回全国私学夏季研究集会(全私研)が、7月28日(土)～30日(月)の3日間、新潟県・妙高赤倉温泉で開催されました。

初日の午前中に全体集会が行われたあと、午後からの3日間、27分科会に分かれて、発表、討論が行われました。全国から、父母、生徒、先生1,002名、愛知県からはその約2割の202名が参加しました。「父母・地域との共同」の分科会では、愛知から3つの学園の父母、先生によるレポート発表がありました。レポートごとにグループ討論が行われ、他県の方との交流をすることができました。また、助成金運動とかかわる「学費問題・私学助成」の分科会では、愛知からは2つのレポート発表がありました。

全国の父母、生徒、先生の元気な発表を身近に聞き、明日からの実践に向けてパワーをもらい、意義のある会でした。

父母懇サマーセミナー実行委員会

2018年7月14日(土)～16日(月・祝)、名誉校長に日本将棋連盟会長佐藤康光氏をお迎えし、椋山学園大学・椋山学園中学校・椋山学園付属小学校・東星中学校・星ヶ丘小学校・星ヶ丘テラスを会場に第30回愛知サマーセミナーが開催されました。「『21世紀型学び』に進路を取ろう！

～ 出会いときっかけのドラマがはじまる ～」をテーマに、3日間で2,179講座、65,000名の参加で大成功に終わる事ができました。1989年に誕生した「愛知サマーセミナー」は記念すべき30回を迎え、実行委員会では「30回記念クリアファイル」を作製、販売いたしました。サマーセミナー

の歴史に想いを馳せ、表面には第29回までの「ガイド・パンフレット」の表紙を、裏面には「愛知サマーセミナーの歩み」を紹介しました。お手にとっていただけましたでしょうか。

焼けつくような暑さの3日間となった2018年のサマーセミナー。父母、生徒、先生、市民、アスケット、会場校、他県からの皆様まで…実に多くの方々との出会いがありました。皆様のご支援とご協力があったからこそ、あの暑さを乗り越え感動的な教育祭典を開催できたのだと思います。心より感謝申し上げます。

父母懇一億円募金実行委員会

日頃は一億円募金活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

平成31年3月までに1億7292万5919円の募金を集めることができました。奨学金貸与者は3,007名で、この募金によって多くの生徒を救うことができました。

生徒たちはこの募金活動を通じて、さまざまな社会問題に目を向け取り組んでいます。「学費の問題で自由に学校を選べない」「親のリストラや失業によって途中でやめなければならない」という仲間を一人でも多く救うため、懸命に募金活動を行っています。

「されど波風体験」普及推進委員会

今年度も本の普及はもとより、「本の内容を普及する」をテーマに、常幹会でお薦めの単元を取り上げて感想を述べ合い、本の内容を広く交流しました。

また、毎月1回の委員会の開催を定例化し、初夏のつどい、サマーセミナー、一泊研修会、全国父母懇交流集会、オータムフェスティバル、一日研修会などでの本の普及活動について議論をしました。3月31日には、映画「それぞれの旅立ち」上映会と、著者である寺内義和先生のミニ講演会を開催し、映画製作当時のエピソードや全国で開

さて、第31回愛知サマーセミナーは7月13日(土)～15日(月・祝)、南山学園(大学、高等学校男子部・女子部、附属小学校)を中心に開催いたします。名誉校長に佐宗章弘氏(名古屋大学副総長)をお迎えし、「はやぶさ2はなぜ電気ロケットを使うの?」を演題に記念講演をしていただきます。特別講師には岩瀬仁紀氏(元中日ドラゴンズ選手)、SAM氏など続々と決まっております。サマーセミナーの成功に向けて実行委員会を中心に準備を進めております。今年もまた皆様のご協力とご支援をよろしく願います。

「苦しんでいる仲間をゼロにしたい!」という思いで、毎月ゼロのつく日に地下鉄栄駅16番出口付近や金山駅付近等で募金活動を行っています。

私たち一億円募金実行委員会は、オータムフェスティバルでの模擬店販売や、書き損じはがきを集め、その収益を一億円募金に充てることで活動を応援しました。

今後も、生徒たちが行きたい学校に笑顔で通えるように、生徒に寄り添って活動していきますので、皆様の温かいご理解とご支援をよろしく願います。

催された上映会の話など、貴重なお話を聞くことができました。

「されど波風体験」「大きな学力」は、父母懇の原点であり、子育てや生き方の方向性を示してくれている本です。普及をひろげることで、父母、先生や市民の方に私学教育や父母懇活動について理解を深めていただけたらと思います。

皆様には一年間普及活動にご協力いただきましたことを感謝するとともに、今後ともご協力をよろしく願います。

専門部活動

■助成金部

助成金部は、私学助成の拡充を目標として活動しています。父母懇の大きな企画である8月の「一泊研修会」と2月の「一日研修会」では第三分科会「助成金」を担当し、県と国の私学助成について参加者のみなさんと楽しく学習できるように企画運営をしています。オータムフェスティバルの始まりと共に、請願署名運動もスタートします。

本年度の県署名は、3,111,582名集約でき、12月の県議会において全会派一致で採択されました。国署名は、2,648,229名集約し、衆参両議院の議員33名に紹介議員をお願いし、請願署名を提出していただきました。毎年積み重ねてきた運動の結果、2019年度は経常費助成が336,311円(+4,505円)に増額され、入学金助成は乙Ⅰランク133,000円(+33,000円)、乙Ⅱランク100,000円(+35,000

円)と大幅に前進することができました。

このような成果は、請願署名だけでなく、市民のみならずと連携した地道な教育活動が反映しています。また、全国私学助成をすすめる会主催の「院内集会」を国会議員会館で年3回行っていきます。さらに、私学の案内書「ようこそ私学へ」の作成をして、新入生や中学生の私学への案内書として利用されています。

今後も私学の学費無償化を目指してみなさんと共に運動を推進していきます。

■会報部

2018年度は、愛知父母懇の1年の活動を、多くの父母に伝えるためのネットニュース作りに取り組んできました。

愛知父母懇総会をスタートに、初夏のつどい、サマーセミナー、一泊研修会、オータムフェスティバル、請願書名、一日研修会など、定期発行4回、特別号として、一泊研修会の分科会、レセプション・アトラクションの記事を部員総出で力を合わせて作り上げ、朝一番に配ることができました。

全国父母懇交流集会福岡大会でも、特別号を配布し、愛知の活動を広くお伝えすることができました。

メンバー以外にも、多くの皆様にご協力していただき、最後まで作り上げ、配布することができました。この場をお借りし心よりお礼申し上げます。

ニュース作りを通して、改めて愛知父母懇の凄さを知ることができました。

本当にありがとうございます。

■研修部

研修部としての役割のうち、特に重要なのは「夏季一泊研修会」と「春季一日研修会」の準備・運営、及びその「まとめ集」の作成であります。

今年度も大きなトラブルもなく終えることができました。

本件に関わってくださった全ての方々のご協力とご支援に深く御礼申し上げます。

思えば去年の初夏、初心者だらけのメンバーでスタートし暗中模索の中、皆で話し合いその都度最良の方法を選択してきました。

部員12名に加え、国語の先生2名という、私としては最強と思える体制で最後まで楽しくやり遂げられたことは嬉しい限りです。

今、終わりを迎えてみると名残惜しいものです。

特にまとめ集の作成に当たっては、一人でも多くの方々に読んでいただけるよう、表紙や体裁等に最大限の工夫をし、「丁寧な仕事と読みやすさ」をモットーに取り組んでまいりました。その成果のまとめ集が、今後も皆様の活動のお役に立てれば幸いです。

最後に、お忙しい中レポート発表を快くお引き受けくださった学園・ブロックの皆様、陰となり日向となり支えてくださった常任幹事をはじめとした関係者の皆様、また、記録係やまとめ集作成作業にお手をお貸しくださった皆様には大変感謝しております。

1年間ありがとうございました。

■文化部

今年の文化部は、皆様楽しんでいただけますよう、まず文化部内が和気あいあいと楽しく一人一人がパワーを出し、一丸となって部員皆が笑顔で皆様をおもてなしたいと活動してきました。

8月の一泊研修会のレセプションでは、センター、学園ごと完成度の高い出し物で盛り上がりました。私達文化部もお揃いのムービーで、男性軍は女装し楽しみながら司会や裏方をさせていただきました。

3月のバスツアーでは、「満腹! 満喫! 木曾路・馬籠宿の旅」とし、内容を濃くしたいとスタンプラリー、マジックショーを企画しました。当日は、晴れたり雪が降ったり雨が降ったり、そして最後には大きな綺麗な虹と皆様の笑顔が心に残るドラマチックな素敵な一日になり、楽しんでいただけた事と思います。

一年間、皆様楽しんでいただけますよう全力で取り組んできました。こうして無事に終える事ができましたのも、皆様のご協力のおかげと感謝いたします。

文化部一同心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

諸会議

〈代表者会議〉

第1回 7月2日(月) 労働会館 東館
第2回 9月1日(土) 労働会館 東館
〈幹事会〉 4月27日(土) 労働会館 東館

〈常任幹事会〉

第1回 6月22日(金) 第4回 9月22日(土) 第7回 12月15日(土) 第10回 3月23日(土)
第2回 7月26日(木) 第5回 10月25日(木) 第8回 1月26日(土) 第11回 4月20日(土)
第3回 8月25日(土) 第6回 11月22日(木) 第9回 2月16日(土) 第12回 5月18日(土)

サークル紹介

群舞サークル 「ほほえみ」

中川初枝先生の指導で楽しく踊っています。体調が悪くても練習に参加すると治ってしまう不思議な力を持っているサークルです。一人ぼっちの親を作らない父母懇のサークルなので誰でも参加出来ます。一度練習に参加して欲しいです。

練習日 毎月第2、第4木曜日
 時間 PM7:30~8:30
 場所 私学会館4階
 会費 月1,000円
 代表 牧野 由美子
 090-6586-0662



平和学習サークル LOVE & PEACE

2015年度の「戦後70年未来プロジェクト実行委員会」の趣旨を受け継ぎ、発展させる活動を目指しています。

広島、長崎に続き、今年の夏は沖縄を訪れました。沖縄慰霊の日の式典に参加し、今となっては最後となった翁長知事の平和宣言をじかに聞き、恒久平和を願わずにはいられませんでした。

また、生徒と一緒に信州スタディツアーにも参加しました。「無言館」で見た画学生の絵は、大切な人への想いがあふれていました。同時に戦争で描き続けることを絶たれた無念さが苦しいほど伝わってきました。

「21世紀型学び」を実践するサークルとして、これからもみんなで楽しく学び、「平和な未来」のために、一歩ずつ歩んでいきたいです。

☆ 新メンバー募集中です！
 代表 吉井知子 090-1750-8963



2018年度決算報告

(2018年4月1日~2019年3月31日)

■収入の部

(単位：円)

款	本年度予算	決算	備考
前年度繰越額	622,418	622,418	
入会金	12,000,000	12,075,000	入会金¥3,000×3,839名+¥558,000
団体会費	6,082,000	6,560,210	会費¥680×9,264名+¥510×119名+私教連¥200,000
利息収入	100	11	
その他の収入	0	0	
合計	18,704,518	19,257,639	

■支出の部

(単位：円)

款	項目	本年度予算	決算	備考
事業費		12,880,000	13,021,903	
集 会 費	総 会	1,700,000	1,601,759	日本特殊陶業市民会館使用料(第39回総会分)等
	大 集 会	300,000	300,000	
	全 国 交 流 会	700,000	770,416	参加費等
	そ の 他 集 会	900,000	939,482	初夏のつどいチラシ、会場費・網の目教育懇会場費補助
	助成金活動費	370,000	423,610	
	す す め る 会	240,000	240,000	
	活 動 費	100,000	172,360	
	一徳門募金活動費	30,000	11,250	
	研 修 活 動 費	850,000	449,398	
		全私研参加	500,000	184,800
	一泊研修会	50,000	40,273	参加者交通費・宿泊費補助・記録費・レセプション補助等
	教研集会等	300,000	224,325	参加者昼食・一日研修記録費等
広 報 活 動 費	300,000	270,000	父母懇ニュース発行	
文 化 活 動 費	100,000	104,626	サークル活動費	
活 動 援 助 費	7,500,000	8,030,452	学園・ブロック還元金等	
渉 外 費	160,000	132,160	アスクネット会費・慶弔関係等	
事務費		5,620,000	5,815,977	
	印 刷 費	900,000	698,220	父母懇リーフレット・ようこそ私学へ・世話人名簿
	通 信 費	100,000	127,030	電話代・郵便代等
	交 通 費	3,500,000	3,927,360	
	会 議 費	30,000	41,003	
	I T 関 連 費	30,000	7,170	
	事 務 局 費	1,060,000	1,015,194	
	事務所維持費	250,000	258,955	家賃・水道光熱費等
	備 品 費	400,000	393,365	各備品リース代・コピーカウンター料
	消 耗 品 費	400,000	360,498	コピーインク・コピー用紙・封筒等
	事 務 費	10,000	2,376	振込み手数料等
予 備 費		204,518	0	
次年度繰越額			419,759	
合計		18,704,518	19,257,639	

仮払い金	143,300	未収入金	0
------	---------	------	---

貸借対照表 (2019年3月31日現在)

(単位：円)

資 産		負債及び繰越金	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	12,206	事 務 所 積 立 金	6,450,000
普 通 預 金	1,276,079	未 払 金	955,034
定 期 預 金	185,508	預 り 金	500,000
事 務 所 出 資 金	6,450,000	借 受 金	200,000
未 収 入 金	0	繰 越 金	419,759
仮 払 金	143,300		
前 払 金	457,700		
合 計	8,524,793	合 計	8,524,793

2018年度 会計監査報告

2018年度収支決算書及び貸借対照表を監査しましたが、いずれも事実と相違ありませんでした。

2019年4月25日

会計監査

柴田 理江 
 峰野 成彦 

2018年度 感謝状贈呈者

大坂 敏子	鳥居 和孝	勝川 雅子
水野 孝	黒澤 裕子	林 いずみ
加藤 智恵子	本多 恵	林 恭代
飯田 奈美	中根 由美	山崎 紅美
中川 砂由里	鈴木 多恵子	遠藤 久美子
藪下 敦史	神谷 真由美	市川 由恵
山田 きく枝	近藤 洋子	木村 美雪
米倉 初美	服部 吟子	高橋 チエミ
堀田 とも子	阿部 千鶴	江尻 雅子
水谷 香里	坂井 清美	稲垣 直子
三鍋 朱身	佐藤 順	
佐治 典子	前田 真智子	
高井 信幸	池田 憲幸	
前田 之恵	川井 葉子	
江口 照子	加藤 美子	
近藤 郷子	相田 珠美	
川端 康乃	内田 博子	
木伏 しづか	横田 稔	
増元 治恵美	田上 未香	
中野 麻紀	赤池 慕子	
岩田 味恵	若杉 智恵	
下村 富貴子	庄田 直子	
大川 和代	浅見 恭子	
白井 信義	宮田 香	

2019年度 役員(案)

役職名	氏名	選出母体
会長	折出 健二	常任幹事会
会長代行	西手 尚子	常任幹事会
副会長	河村 実 園田 則子	享栄 尾張東部センター
事務局 局長	丸山 明美	名北センター
事務局 次長	松本 真奈美 神谷 千鶴穂 柴田 千春 渡辺 邦夫	尾張西部センター 名北センター 愛知淑徳 名東センター
会計	遠藤 久美子 川井 葉子	名中センター 名東センター
書記	阿部 尚美	愛知黎明
助成金部長 助成金副部長	寺西 幸治 今枝 亜つ子 佐藤 順 山本 悠美	名経大市邨 名西センター 同朋 名南センター
会報部長 会報副部長	岡崎 美弥子 水野 美智代 高木 貴子	名西センター 名南センター 名西センター
研修部長 研修副部長	角田 知里 酒井 活明 木村 恵美 小島 香	東海 知多センター 西三河センター 東邦
文化部長 文化副部長	大久保 洋子 杉岡 幸二 三澤 佐代	西三河センター 名中センター 知多センター
会計監査	柴田 理江 峰野 成彦	桜丘 豊川
名誉顧問	竹本 弘 中川 初枝 佐藤 廣和 山田 肥名子 安井 浩樹 寺田 京子	常任幹事会 常任幹事会 常任幹事会 常任幹事会 常任幹事会 常任幹事会
顧問	大坂 敏子 加藤 智恵子	常任幹事会 常任幹事会

2019年度 活動計画(案)

私学をよくする愛知父母懇談会は、「ひとりぼっちの父母をつくらない」をモットーに、39年間にわたって父母、生徒、先生、市民が一緒になって、お互いに学び合い、助け合い、共に成長していく環境づくりを行ってきました。個の尊厳をふまえた国民主権と民主主義、それに基づく教育が根底から問われる中で、多様性と個性を大事にして、協働と連帯をつくりあげてきた愛知父母懇談会は、今、大きなちからを発揮しています。

わたしたちは、高校生たちや多くの父母とともに、「21世紀型学び」をさらに深め、いつも「問い」と「学び合い」を基本にすえて、個人から家庭、家庭から地域、地域から社会へ、世代を超えた“つながり”を創造し、平和で生き活きた社会を目指して、以下の活動に取り組んでいきます。

- 1) ブロック・学園の活動を充実させ、父母、生徒、先生、市民がつながる「21世紀型学び」を、生き生きと創り出します。
 - ①「教育を考える初夏のつどい」を父母、生徒、先生、市民とともに楽しく、豊かに開催します。
 - ②ブロックと学園が力を合わせ、市民とともに、「私学選択の自由は、県民の総意」を体現する、子どもたちの輝きや躍動で溢れる「オータムフェスティバル」を開催します。
 - ③ブロック・学園で定期的に教育懇談会を開催します。
 - ④アスクネットと協働し、各ブロック・学園で市民参加の学びを創造していきます。
 - ⑤愛知私学の「人間教育」の魂を伝える『されど波風体験』と『大きな学力』の普及活動を推進し、「生きる力」を育む人間教育、「21世紀型学び」へと教育改革を進めていきます。
- 2) 第31回愛知サマーセミナーに主体者として参加し、人々や地域とつながりながら、「21世紀型学び」を発展させます。
 - ①第31回愛知サマーセミナー（会場：南山学園他）の成功をめざして活動します。
 - ②ブロック・学園による講座を発掘するとともに、多くの市民の講座も充実させます。
 - ③サマーセミナーを通じて主体的に学び楽しみます。
 - ④宣伝を通じて、地域や市民にサマーセミナーを伝え、多くの参加者を募ります。
- 3) 子どもたちが家庭の経済状況を心配せず、誇りをもって私学を選び、学ぶために、「私学選択の自由」「私学も無償に！」の旗を掲げ、学費と教育条件の「公私格差の解消」を求める活動を展開します。
 - ①国に対して、私学の無償化をめざし、「就学支援金の拡充」を求める全国統一署名に取り組みます。
 - ②県においても「私学も無償に！」の世論をさらに広げ、私学助成の拡充を求める請願署名に取り組み、県議会全党一致採択をめざします。
 - ③県や県議会、市民に対して理解と共感を求めて、オータムフェスティバルの成功にむけて全力で取り組みます。
 - ④名古屋市に対して、「教育の機会均等」の誇るべき理念を守り、名古屋市独自の授業料助成を、従来の制度に沿って増額するように求めていきます。
 - ⑤各市町村独自の授業料軽減助成の増額と、所得制限を撤廃する一律助成を求めていきます。
- 4) 生徒たちの学びを支援し、共に学び、行動する社会力を涵養します。
 - ①愛知県高校生フェスティバルを積極的に支援していきます。
 - ②高校生による「私学奨学資金財団」一億円募金活動を支援して、子どもと教育を守る市民のネットワークを広げ、理解と善意の輪を広げていきます。
 - ③18歳選挙権となった今、生徒たちが考え、行動することを、先生や地域の市民と協力しながらサポートし、一緒に学び成長していきます。
 - ④アクティブラーニングやインターンシップなど、生徒が主体的に参加し、社会とつながる学びを積極的に支援します。
- 5) 愛知父母懇の活動を充実させ、組織を強くします。
 - ①学びや文化活動バスツアーなど、レクリエーション活動を通じて、出会いを大切に楽しくてやりがいのある父母懇活動をすすめ、会員相互の親睦を深め、仲間の輪を広げます。
 - ②「学びと宴」を中心に、豊かな地域センターの活動をすすめ、ブロックと学園のつながりを深めます。
 - ③各実行委員会、推進委員会の活動を活性化します。
 - ④会報やニュースの発行、インターネットを活用した情報発信を行い、広く地域住民へ私学教育、父母懇活動への理解を求めていきます。
- 6) 夏季一泊研修会、春季一日研修会を開催して、愛知父母懇のさまざまな活動を学び合い、父母懇活動の理解と会員同士の交流を深めていきます。
- 7) 10月に開催される「全国父母懇交流集会京都大会」に参加し、目的や理念を共有する他団体との協働や交流を積極的に進めていきます。
- 8) その他愛知父母懇の理念に基づき、目的達成に必要な諸活動をすすめます。

2019年度予算(案)

(2019年4月1日～2020年3月31日)

■収入の部

(単位：円)

款	本年度予算	備 考
前年度繰越額	419,759	
入 会 金	12,000,000	入会金¥3,000×4,000名
団 体 会 費	6,082,000	会費¥680×8,500名+¥510×200名+私教連¥200,000
利 息 収 入	100	
合 計	18,501,859	

■支出の部

(単位：円)

款	項 目	本年度予算	備 考
事業費		12,300,000	
	集 会 費	2,800,000	
	総 会	1,500,000	名古屋市公会堂使用料等
	大 集 会	300,000	サマーセミナー拠出金
	全 国 交 流 会	700,000	参加費等
	そ の 他 集 会	300,000	初夏のつどいチラシ、会場費・網の目教育懇会場費補助
	助成金活動費	400,000	
	すすめる会	240,000	
	活 動 費	130,000	中央行動にともなう交通費等
	一億円募金活動費	30,000	
	研 修 活 動 費	800,000	
	全 私 研 参 加	340,000	参加者交通費・宿泊費補助
	一 泊 研 修 会	160,000	記録費・レセプション補助等
	教 研 集 会 等	300,000	参加者昼食・一日研修会記録費等
	広 報 活 動 費	300,000	父母懇ニュース発行
	文 化 活 動 費	140,000	サークル活動・バス旅行補助等
	活 動 援 助 費	7,500,000	学園・ブロック還元金等
	涉 外 費	160,000	アスクネット会費・慶弔関係等
	40周年 記念事業費	200,000	
事務費		5,620,000	
	印 刷 費	900,000	父母懇リーフレット・ようこそ私学へ・世話人名簿
	通 信 費	100,000	電話代・郵便代等
	交 通 費	3,500,000	
	会 議 費	30,000	
	I T 関 連 費	30,000	
	事 務 局 費	1,060,000	
	事務所維持費	250,000	家賃・水道光熱費等
	備 品 費	400,000	各備品リース料・コピーカウンター料等
	消 耗 品 費	400,000	コピーインク・コピー用紙・封筒等
	事 務 費	10,000	振込み手数料等
予備費		581,859	
合 計		18,501,859	

総会決議 (案)

これまで39年間にわたり、私たち「私学をよくする愛知父母懇談会」は、父母と先生と市民が一緒になって、より良い教育環境をつくり、ともに子どもと教育を守り育てることで、成長してきました。そして、サマーセミナーやオースタムフェスティバルなど「21世紀型学び」を体現させる様々な活動で、多くの市民と共に、感動を共有し、私立高校無償化に向かう新たな時代を切り拓いてきました。これからも「21世紀型学び」で、地域のあらゆる人々となつながら、多様な人々が主体者となる「教育改革の波」を創り出し、子どもたちの未来を切り開く父母懇活動を行っていきます。

1. すべての子どもがかけがえのない存在として認められる、子どもと大人がともに育ちあう「21世紀型学び」を、学園と地域から豊かに創り出しましょう！

地域センターを基盤に、ブロックと学園のつながりを深め、子どもたちの自主活動を全面的に支えて、子どもたちが活躍できる場を多彩に創り、すべての子どもがかけがえのない存在として認められ、子どもと大人がともに育ちあう「21世紀型学び」を豊かに創り出しましょう！

2. すべての子どもに「私学選択の自由を！」「私学も無償に！」を実現しましょう！

教育は、社会全体にとっての基盤であり財産です。学費の心配をせず、私学を自由に選べることは、すべての子どもと父母の願いです。サマーセミナー、オースタムフェスティバル、署名などあらゆる活動を通じて、「私学選択の自由を！」「私学も無償に！」の実現をめざしましょう！

3. 「一人ぼっちの父母をつくらない」父母懇活動のつながりを広げ、次の世代につなげましょう！

〃父母懇の原点、に立ち返り、「一人ぼっちの父母をつくらない」のスローガンのもと、学びと宴を通じて楽しく活動し、父母懇のつながりを広げて、世代を超えて引き継がれてきた愛知父母懇のあゆみを、さらに次の世代につないでいきましょう！新しい人たちを迎え、多彩な人々とともに、子どもたちの未来を切り開くために、平和で明るい公平な市民社会を目指して力を尽くしていきましょう！

2019年度 スローガン(案)

- 1 「街とつながる学校」「ひとりの子どもを救おう」を合言葉に、地域に根ざした学校改革・教育改革をめざしましょう。
- 2 「教育を考える初夏のつどい」「第31回愛知サマーセミナー」「地域別県民文化大祭典2019」を通して、父母、生徒、先生、市民とつながり、「21世紀型学び」を多彩に創り上げていきましょう。
- 3 誇りをもって私学を選び・学ぶために、「私学選択の自由」「私立高校の無償化」をめざして、国や県・市町村に対して、「公私格差の解消」に向けて、父母懇の総力を結集しましょう。
- 4 子どもと教育を守るネットワーク運動を積極的にすすめ、私学奨学資金財団「一億円募金」の理解と善意の輪をさらに広げましょう。
- 5 「21世紀型学び」の創造の場として、「地域センター」の活動を発展させ、地域のつながり・活動をさらに高めて、ブロック・学園の強化につなげましょう。
- 6 「網の目教育懇談会」を開催し、小・中学生父母や市民と語り合いながら、私学教育への共感と理解を拡げていきましょう。
- 7 学びや、文化活動、レクリエーションを通じて、楽しいブロック・学園活動をすすめ、「ひとりぼっちの父母をつくらない」を合言葉に、新しい仲間づくりを活発にすすめましょう。
- 8 『されど波風体験』『大きな学力』の学習・普及運動に取り組み、「21世紀型学び」を豊かに創造しながら、父母懇運動への理解と協力を深め、市民ぐるみの運動へと、推進、発展させましょう。

私学をよくする愛知父母懇談会会則(案)

1. 名称

この会は、私立学校をよくしたいとねがう父母の自由な懇談会で「私学をよくする愛知父母懇談会」(略称「愛知父母懇」)と称します。

2. 目的

この会は、県民が誇りをもって選び、学び、語ることのできる私学づくりをめざし、次のことを目的とします。

- (1)子どもを生き生きと成長させるために、教職員とも連携しながら、各学園に豊かな私学教育を創造し、家庭や地域の教育力を回復するために努力します。
- (2)父母負担を軽減し、受験地獄を解消するために、学費の公私格差の解消をめざして、公費助成の大幅増額のために努力します。
- (3)要望や意見を率直に出し、自由に話し合う中で、教職員や父母相互の理解と連帯を深めるとともに、各界各層の団体や県民・地域住民とも交流し、私学の充実発展を求める県民の合意と世論を広げるために努力します。

3. 活動

この会は、目的を実行するために、次の活動を行います。

- (1)教職員の協力も得て、教育について学びあい、話し合うための集会を持ちます。
- (2)公費助成運動をすすめます。
- (3)会員相互の親睦と連帯を深め、広く父母の参加を呼びかけます。
- (4)学園・地域における父母の活動について交流、懇談します。
- (5)父母と教職員の結びつきを各学園においてもひろげます。
- (6)目的を同じくする他の団体と交流・連携します。
- (7)会報やニュースを発行します。
- (8)その他、会の目的達成に必要な諸事業を行います。

4. 構成

- (1)この会は、個人会員および団体会員をもって構成する。

会員の資格

個人会員：入会金を納めた個人

団体会員：団体会費を納めた団体に所属している会員

- (2)会員はブロックにすべて所属し、活動することを原則とする。

5. 運営

この会を運営するために、次の機関をもうけます。機関での決定は、出席者の過半数とします。

- (1)総会(定期総会は年1回とし、必要に応じて随時開催する)
- (2)幹事会(随時開催する)
- (3)常任幹事会(随時開催する)
- (4)各地域世話人会(随時開催する)

6. 役員

この会は、次の役員をもうけます。役員の任期は1年とし、再選は妨げません。

- (1)会長1名(2)会長代行(必要に応じて)1名(3)副会長若干名(4)事務局長1名(5)事務局次長若干名(6)会計2名(7)書記若干名(8)専門部長・副部長若干名(9)会計監査2名(10)顧問若干名(11)幹事(地域センター・学園・ブロック代表およびその他必要とする役職)

7. 財政

この会の経費は、入会金、団体会費および会の活動によってうまれる事業収入、寄付金その他によってまかないます。

8. 事業年度

この会の事業年度は、毎年6月1日よりはじめ、翌年の5月31日までとします。(但し、実行委員会については、職務の性質によってはこの限りではない。)

9. 改正

この会則の改正は、総会において出席者の3分の2以上の賛同によって行ないます。

10. 施行

この会則は、1980年6月15日から実施します。
この会則は、1982年6月13日から一部改正します。
この会則は、1984年6月10日から一部改正します。
この会則は、1987年6月28日から一部改正します。
この会則は、1992年6月7日から一部改正します。
この会則は、2019年6月1日から一部改正します。